

令和6年度 上田市立東小学校 学校自己評価シート

前期分(中間)報告

学校目標		めざす子ども像	
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども		1 自分の言葉で語り 聴き合い 自ら行動できる子ども【自己表現力】 2 自他のよさを認め ふれ合って 協働的に学ぶ子ども【社会参画力】 3 向上心をもって ねばり強く 最後までやり抜く子ども【課題探究力】	
今年度の重点目標(重点活動)			
「子どもたちが 主人公の 幸せな学校」 「自分から」 そして「笑顔」 と「自信」	主体性の追究	○授業改善～子ども主役の授業へ～ ○子どもたちが自分で計画実行する学習 ○子どもに合わせた多様な学習スタイル	
	多様性に向き合う	○多様性を包み込む教育の推進 ○相手を受け止め 折り合いをつける力 ○「対話」と「協働」と「笑顔」で多様性に対応	
	つながる 広がる学校	○「挨拶」「懇談」「情報発信」で輪を広げる ○地域・保護者との横のつながりを広げる ○一中区学校園との縦のつながりを深める	

総合評価					
・ベアやグループでの活動を意図的に行うことで自分の言葉で語る経験を積み重ねることができている。 ・グループで同じ目的に向かって追究する活動を意図的に仕組むことで、一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わさることのよさを体験する機会を積み重ねてきている。 ・結果だけでなく、その追究の過程を評価することでねばり強く最後までやりぬこうとする子どもの姿が見られる。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
個別最適な学び」と「協働的な学び」の二つの視点から授業改善を行い、子どもの主体性の高まりが見られるようになった。		○			発達段階に応じた東小スタンダードを決めだし、実行していく。
友だち同士のトラブルの際は、お互いの思いをていねいに聴き合う場を設けることで、相手を受け止め、折り合いをつける力がついてきている。		○			「対話」を大切にした活動や「協働」を意識した活動を意図的に取り組み、多様な他者を受け入れる経験を積み重ねていく。
コミュニティ・ルームを開設したことで、地域・保護者とのつながりをより活発にすることができた。		○			一中区の学校園とのつながりを活発にできるように情報交換を密にとっていく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	主体性の追究	子どもたちに合わせた多様な学習スタイル	・ベアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合う学習場面を設定しているか。 ・ICTの積極的活用と実体験の両立を図れたか。 ・自分らしく学ぶことができる授業のUD化を図れたか。
		子ども主役の授業 子どもたちが自分で計画実行する学習	・自分の考えを相手にわかるように伝えるために、わかりやすい伝え方の指導をしたり、伝えようとする場面を設定したりしているか。 ・学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。
	多様性に向き合う	よさやちがいを受け入れ 認め合う	・「E～tokoメガネ」で互いのよさを捉えたり、「プラス言葉」でよさを全体に広げたりすることをしているか。 ・「寛容」の気持ちで折り合いをつける人権感覚を育てたり、子どもと向き合い思いを受け止める相談の機会を設けているか。
		「憧れや思いやり」が生まれ「笑顔のバトン」をつなぐ交流活動づくり	・「憧れ/思いやり」が生まれるように、学年や学級の枠を越えて、つながり合う異学年交流活動の機会を設けているか。 ・「なかよしタイム」(わくわくディ・あそびデイ)や「集会活動」を通して、みんなの「笑顔のバトン」をつなげることができたか。
		一人ひとりが輝き活動できる場づくり	・子どもたちが目標をもち、継続的に取り組んだり、新たに挑戦したりして、成長や自信に結びつく取組ができたか。 ・自ら体を動かしたり(体力づくり)、気づいて働いたり(みがきタイム)、特技を伸ばしたり(〇〇名人)できる後押しをしてあげたか。
	つながる広がる学校	あいさつと返事で人と人の心をつなげる	・積極的な声がけや児童会との連携で、相手に伝わる気持ちのよい挨拶を自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。 ・「はい」で反応するつながりのよさを実感させる雰囲気作りを進んで行っているか。
学校運営	広がる学校	地域学習とキャリア教育で地域とつなげる	・生活科、社会科、総合的な学習等で地域学習を位置付けて、地域の人、もの、ことと関わり合える授業づくりができたか。 ・地域の名人、達人を授業に招き、地域のよさ、人のすばらしさを学んだり、自分の生き方を考えたりする機会となったか。
		共に学校を拓き信頼関係をつなげる	・学校、学年、学級だよりや学校ホームページ、オクレンジャーでのメール送信等を通して、学校での子どもたちの学びの様子や家庭連絡を保護者や地域に発信することができたか。またうれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取ったりすることができたか。
	教職員の姿勢	教職員集団を学びと成長へとつなげる	・温かな眼差しで、子どもの変容をゆつくりと待ち、子どもと共に学び、共に成長することができているか。 ・何事も新しい発想で、前向きに、一歩でも前進しようと挑戦を試みようとしているか。
		あらゆる垣根を越えてチームによる支援体制へとつなげる	・子どもたちを常に複数の眼差しで見守り、多面的多角的な捉えで児童理解を深め、よさや可能性を引き出すようにしているか。 ・自分を学級を学年を拓き、喜びや達成感を分かち合い、つながり合いながらチームで支援できるようにしているか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
指導方法や指導体制の工夫改善を行い、「個に応じた指導」の充実が図れるように取り組んだ。ICTの活用によって、「指導の個別化」がより図られ、その子に合わせた支援ができています。		○			「個別最適な学び」と「協働的な学び」の二つの視点を意識した研究を進め、研究授業を積み重ね、有効な学習スタイルの確立を図っていく。また、発達段階に応じた東小スタンダードを決めだし、実行していく。
自由進度学習について研究を進め、子どもたちが自分なりのスタイルで学ぶ経験を大切にしたい取り組みを行い、自己調整力の育成が図られた。また、ICTを多様な場面で活用し、子どもたちの学びの幅を広げることができた。		○			毎時間の振り返りについては、時間の確保が難しくできなかったもので、時間配分や振り返りの方法などを工夫し、効果的な振り返りとなるように心がける。
帰りの会に友達のよいところを発表し合う場を設定し、相手を尊重することのよさを感じることができている。今年度から、相談週間を設定し、子どもの悩みを受け止めることを大切にしていたが、一人ひとりに向き合うにはもっと時間の確保が必要である。		○			「なかよし月間」では全校で「E～tokoメガネ」を広げていく。後期の相談週間は、前期よりも多くの時間を確保し、ていねいに一人ひとりの悩みを受け止められるようにしていく。
児童集会のなかで、高学年が積極的に発言することで、低学年の見本となる姿があらわれた。今年度は定期的に「なかよしタイム」を設定し、異学年交流の場を作ろうと試みているが、前期はあまり交流することができなかった。		○			「なかよし月間」でのなかよし学級での交流や「あさかせ祭」でのベア交流を通して、「憧れ」「思いやり」が生まれるようにしていく。
みがきタイムの充実を目指し、児童会活動を中心に活動している。掃除を通して、落ち着いた気持ちで自分と向き合える児童が増えてきている。		○			月目標や学級目標などを意識して生活できるようにしていく。振り返りを大切にして、自信と成長を感じられる場をもてるようにする。
児童会本部が行ったあいさつ運動によってあいさつの輪が広がってきている。また、児童集会において、あいさつの大切さについて子ども同士での意見交換を行ったことで、自分事としてとらえ、自発的なあいさつへとつながってきている。		○			あいさつの質については個人差があるが、その子なりの成長を捉え、自信につなげることができるよう自分のあいさつについて見つめ直す場を設置していく。
学級・学年によっては、地域の人とかかわり、地域とのつながりを意識した活動を行い、「地域への誇りや思いを高めることができた。(「よもぎだんご作り」「押出川の取組」「海野町の活性化」等)			○		前期は、行事等が多くあり、なかなか地域へ出る機会を計画できない学年・学級があったので、後期は計画的に地域とつながる活動を位置づけていく。
学校だより、学年だより、学級通信、ホームページを通して、子どもたちの学びの姿を家庭、地域に発信でき、学校の教育活動の理解を図っていただけた。悩みをかかえている家庭には、積極的に担任から連絡をとり、寄り添うことができた。		○			欠席連絡をオンライン化し、保護者と確実に連絡を取り合えるシステムが構築された。保護者や地域とのつながりをさらに促進できるようなDX化の工夫を考えていく。
今年度から始めた教科担任制の挑戦に関しては、はじめは戸惑いがあったが、実践を積み重ねていくなかで、効果的なシステムとして前向きに機能させられるようになってきている。		○			教師同士がお互いに、教え合ったあり、聞き合ったりする場を設け、職員一人ひとりの持ち味を生かせるようにする。
教科担任制により、これまで以上に複数の眼差しで子どもを捉えられるようになっている。学年会では、子どもたちの状態について多面的・多角的に捉えた情報共有がされるようになってきている。		○			子どもたちのよい姿の情報共有をさらにに行い、子どもたちにフィードバックし、自己肯定感や自信につなげていく。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった